日仏文化講座

「共同体と贈与――ジョルジュ・バタイユの思想から」

2020 年 10 月 10 日（土）　13:00〜18:00

Zoom 使用によるオンライン

澤田直　岩野卓司　栗原康　酒井健　鵜飼哲　中沢新一

参加費：一般 1,000 円　日仏会館会員無料

詳細は（公財）日仏会館ウェブサイトをご覧ください。

参加申し込み：

https://fmfj.peatix.com/（Peatix（公財）日仏会館ページ）

主催：（公財）日仏会館

〒150-0013　東京都渋谷区恵比寿 3-9-25

tel：03-5424-1141　fax：03-5424-1200

e-mail：bjmfj［@mfjtokyo.or.jp を付けてください］

Communauté et don

A partir de la pensée de Georges Bataille

Nao SAWADA, Takuji IWANO, Yasushi KURIHARA, Takeshi SAKAI, Satoshi UKAI, Shinichi NAKAZAWA

Organisation : Fondation Maison franco-japonaise

申し込み QR コード

日仏会館

だが、私たちとしては、そのような世界共和国の可能性の検討へと羽ばたく前に、いましばらく個人的なレベルでの考察をつづけることにしたい。……まずは中間団体というさまざまなアソシエーションにおいて、もともとの共同体における重要な要素である贈与性 générosité を何らかのしかたで復権させることが、身近な現場でできることの第一歩ではないだろうか。
澤田直「雑種たちの共同体を求めて」『共にあることの哲学と現実』書肆心水、2017年

ひとたび賭博がはじまれば、時間の流れにゆがみが生じる。大人になれとか、働けとか、ご主人さまの命令には絶対服従とか、楽しいことはその範囲内でやりましょうとか、そういうのはもうどうでもいいことだ。自分がやりたいことは、いまこの場でいっぺんにやってしまえばいい。楽しくて、楽しくてしかたがない。……わがままな猿は自由をむさぼる。
栗原康「ストライキの哲学」『大杉栄伝』夜光社、2013年

二人はともに広大な「交流」という発想へ導かれていた。……恋愛は二人の人間だけに閉ざされているのではなく、広い世界への欲求を生みだす。たとえ相手が死んでも、追想のなかから恋情が蘇って、広大な世界へ向かわせる。そこがどす黒い感情の世界であっても、呼びかけたいという思いを引き起こす。
酒井健「訳者あとがき」ジョルジュ・バタイユ『魔法使いの弟子』景文館書店、2015年

L'interattraction humaine n'est pas immédiate, elle est dans le sens précis du mot ***médiatisée***, c'est-à-dire que les rapports de deux hommes entre eux sont profondément altérés du fait qu'ils sont situés l'un et l'autre dans l'orbite du noyau central : le contenu essentiellement terrifiant du noyau autour duquel l'existence de chacun d'eux gravite intervient dans leur relation comme un moyen terme inévitable.
Les Œuvres Complètes de Georges Bataille, tome II, Gallimard, p.311

人間相互の牽引力は直接的ではありません。この言葉（médiatiser）の正確な意味において、まさに**メディアを介している**のです。つまり二人の人間のあいだの関係は、この二人が中心核の影響下に置かれているために、根源的に変質を被るということなのです。両者の実存はこの中心核のまわりを動いているのですが、この中心核の本質的に恐ろしい内実が、両者の関係に、避けがたい媒介として介してくるのです。
「社会学研究会」1938年1月22日の講演より、強調はバタイユ

第一部　13:00〜15:00

司会　澤田直（立教大学・日仏会館）

開会の言葉／趣旨説明　岩野卓司（明治大学）

栗原康（東北芸術工科大学）「美は乱調にあり」

酒井健（法政大学）「バタイユとメディアの思想――贈与が切り拓く境界域について」

澤田直「生を与える――家族と共同体」

質疑応答

第二部　15:30〜18:00

鵜飼哲（一橋大学名誉教授）「笑いの感染――「留保なきヘーゲル主義」以後、デリダはバタイユとどう付き合ったか？」

中沢新一（明治大学）　×　岩野卓司「対談――考古学者　バタイユ」

質疑応答

人間は人間になるために、まわりの世界とのあいだに亀裂をいれる必要があったのだ。けれど、それとひきかえに深々とした連続の意識とか、共生状態の優しさとかを、失わなくてはならなかったわけである。ジャングルは遠近法によって徹底的につくりかえられ、徹底的に去勢されてしまった。
中沢新一「バリ島のジョルジュ・バタイユ」『野ウサギの走り』思潮社、1986年

「過去と結びついた愛国主義のケチくささ」と異なり、アセファルは未知の「未来に対する攻撃的な無償の贈与」を行う。……それは、「子供の国」である未知の未来に賭けること、何の計算もなく贈与し、この未来に賭けることに他ならない。
岩野卓司「宗教を不可能にする宗教性、共同体を不可能にする共同性」『共にあることの哲学』書肆心水、2016年

時代の腐敗に対する、継ぎ目の外れた時間に対する、またそれを修復しなければならない生まれつきの義務に対するハムレットの二重の嘆きに、私たち自身の姿を、別の仕方で認めるようになるでしょう。彼と同じく、私たちはみな、正義を行うために生まれてきたのだと私は信じています。
鵜飼哲「解体と政治」『ジャッキー・デリダの墓』みすず書房、2014年

Le don doit être considéré comme une perte et ainsi comme une destruction partielle : le désir de détruire étant reporté en parie sur le donataire. Dans les formes inconscientes, telles que la psychanalyse les décrit, il symbolise l'excrétion qui elle-même est liée à la mort conformément à la connexion fondamentale de l'érotisme anal et du sadisme.
Les Œuvres Complètes de Georges Bataille, tome I, Gallimard, p.310

贈与は損失と考えなければならない。したがって部分的な破壊と考えなければならない。というのも、破壊したいという欲望を、部分的に受取人に振り向けるからである。精神分析が描く無意識の形態においては、贈与は排泄を象徴しており、排泄はそれ自身、肛門エロティシズムとサディズムとの根深い関連に応じて死と結びついている。
「消費の観念」（1933年1月『社会批評』誌7号）より

la communauté de ceux qui n'ont pas de communauté
Les Œuvres Complètes de Georges Bataille, tome V, Gallimard, p.483

共同体をもたない者たちの共同体
「追伸 1953年」（『内的経験』増補版所収）のための1952年1月22日の草稿より

Le soleil donne sans jamais recevoir : les hommes en eurent le sentiment bien avant que l'astrophysique ait mesuré cette incessante prodigalité ; ils le voyaient mûrir les moissons et liaient la splendeur qui lui appartient au geste de qui donne sans recevoir.
Les Œuvres Complètes de Georges Bataille, tome VII, Gallimard, p.35

太陽は贈与するが何かを受け取ることは決してない。天体物理学がこの絶えざる浪費を計測する以前から、人々はそれを感じ取っていた。太陽が収穫物を実らせるのを見て、人々は太陽に属する輝きと贈与するが何も受け取らない者の振る舞いを結びつけて考えていたのだ。
『呪われた部分』1949年より